

## 東北支部研修委員会研修会

日時：平成30年7月6日(金) 13:30~14:30

場所：良陵会館 記念ホール

### 教育講演「これからの胃がん検診はどうあるべきか」

渋谷 大助（日本消化器がん検診学会 理事長）

司会：深尾 彰（宮城県対がん協会研究局）

## 教育講演

「これからの胃がん検診はどうあるべきか」

渋谷 大助（日本消化器がん検診学会 理事長）

本学会が発足して 56 年経つが、当初は間接 X 線撮影による胃がん検診の標準化が主要な研究テーマであった。その後大腸がん検診、腹部超音波検診が導入された。その間胃がん検診においては、DR 撮影や高濃度低粘性バリウムを用いた新撮影法など、機器や撮影法の改善はあったが、長らく X 線が唯一のスクリーニング法として 50 年余りにわたって続いていた。ガイドラインの見直しにより、胃内視鏡検診が今後増加すると思われるが、X 線検診はこれからも必要であり、それを担うキーマンは診療放射線技師である。読影医師の減少を補うためにも、読影の補助を担える診療放射線技師の育成と資格認定は喫緊の課題である。また、内視鏡検診と X 線検診、リスク評価などのデータは、それぞれがバラバラでは効率的な検診はできない。そのためにはデータの一元管理が必要であり、総合的なデータベースの構築とそれを管理するデータセンターの構築が必要である。また、判定区分の標準化も含めたがん検診の標準化、外部評価の導入による精度管理の向上がこれからの胃がん検診のあるべき姿と考える。

司会：深尾 彰（宮城県対がん協会研究局）